

# 令和6（2024）年度 事業報告書

## ★ 大阪工業技術専門学校

### 1. 学科別出願者、入学者数の状況

（令和7（2025）年5月1日現在）

学科名 \ 区 分	入学定員	出願者	入学者
I部建築学科	80名	56名(46)	55名(43)
建築設計学科	30名	27名(25)	25名(22)
インテリアデザイン学科	30名	33名(24)	33名(23)
大工技能学科	30名	20名(27)	19名(26)
ロボット・機械学科	30名	24名(20)	22名(15)
建築士専科	30名	38名(35)	31名(32)
II部建築学科	50名	55名(56)	51名(53)
合 計	280名	253名(233)	236名(214)

（ ）は昨年度数

### 2. 就職の状況

#### ① I部卒業生

（令和7（2025）年3月31日現在）

学科名	令和4（2022）年度				令和5（2023）年度				令和6（2024）年度			
	卒業生	求職者	内定者	内定率	卒業生	求職者	内定者	内定率	卒業生	求職者	内定者	内定率
I部建築学科	79	71	64	90.1	85	67	61	91.0	67	44	44	100
建築設計学科	25	23	20	87.0	33	30	29	96.7	20	14	13	93
大工技能学科	32	31	30	96.8	37	36	36	100	20	20	20	100
インテリアデザイン 学科	26	21	19	90.5	30	21	16	76.2	31	18	17	94
ロボット・機械 学科	35	33	30	90.9	28	27	26	96.3	22	22	21	96
建築士専科	33	33	31	93.9	13	13	13	100	32	32	31	97
合 計	230	212	194	91.5	226	194	181	93.3	192	150	146	97

※内定率は、内定者÷求職者で、単位は%です

### 3. 教育行事

1) 企業研修 夏季全学科合計：R6：85名（R5：94名、R4：119名）

春季全学科合計：R6：24名（R5：82名、R4：60名）

※ 夏季または春季休暇期間中の1～2週間で実施した。

## 2) 保護者会の実施

夜間部学科を除く1年生対象の保護者会を2月に対面で実施した。

## 3) 各イベント・競技会への参加

「なにわ建築フェスタ 2024 ダンボールハウス製作発表展」

「第34回 あすなる夢建築（大阪府）」

「おおさかのものづくりコレクション 2024」（大阪府）、「夢キタ万博 2024」（大阪市北区）、他

## 4. 教育改革等

令和6（2024）年度も講義科目をオンライン形式で実施したことで、昼間部学科2年生は週4日、夜間部では1・2年生ともに週2日程度の登校による対面授業となった。これにより、学生の通学負担の軽減や授業運営の効率化、場所を問わない学習環境の実現など、新たな授業形態の探求と研究に活用された。

夜間部の講義科目では、オンラインまたは登校による受講を学生が自由に選択できる体制を整えたことで、多くの社会人学生にとって学びの選択肢が広がり、満足度の向上につながった。また、入学希望者に対しても心理的ハードルの軽減につながったと推察する。

全ての授業においてICTの活用や電子黒板の使用が定着してきたが、今後も専任教員および非常勤講師との間で研修を継続し、質の高い授業実現を目指す。一方で、電子黒板の経年劣化も一部確認されており、事務課と連携しながら適切な対応を進めていく。

広報活動と連携して、工業系高校出身者を対象とした特別講座「建築士対策講座」を実施し、在学中の学科試験合格を目指す取り組みを行っている。令和5（2023）年度に学科試験に合格した学生のうち1名が、今回の製図試験にも合格し、二級建築士の資格を取得した。

資格取得強化策の一つとして、建築学科1年生の2級施工管理技士出願者に対し「学科対策講座」を試行的に実施。11名が受講し7名が合格を果たしている。

一方で、学力が十分でない学生の入学が見られる中、入学直後に基礎学力テストを実施し、必要に応じて基礎学力養成講座への参加を促している。これにより、中途退学の抑制に一定の効果があったと考えられる。

キャリアデザイン授業の一環として実施している「進路基礎講座」では、社会人としてのマナーやSPI対策を通じて、学生の進路意識を高め、積極的な進路活動を促進した。また、「企業研修」は企業側が採用活動の一環として重視する傾向があり、学生の職業意識の強化や適性の確認に効果的であるため、今後も継続的な指導を行っていく。

### (1) 資格取得強化事業

新入生全員（リカレント学生の一部を除く）に対して実施している『ビジネス能力検定3級・2級』と各学科の授業科目に対応した『各種の資格取得試験』、及び建築士専科が100%合格を目標としている『2級建築士試験（国家資格）』の合格率は下記の通りである。

建築設計学科、及びⅡ部建築学科を除く全学科（1年生）

（令和6.12.1実施）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
ビジネス能力検定 3 級	59 名	51 名	86.4%	90.7%
ビジネス能力検定 2 級	18 名	12 名	66.7%	66.6%

I 部建築学科 A・B クラス、建築設計学科（1年生）

（令和6.7.12～8.1実施）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
福祉住環境コーディネーター 3 級	49 名	18 名	36.7%	40.8%

I 部建築学科

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
建築積算士補	28 名	19 名	67.9%	未公表

インテリアデザイン学科

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
インテリアコーディネーター1次	23 名	3 名	13.0%	33.1%
インテリアコーディネーター2次	3 名	3 名	100%	55.5%

大工技能学科

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
建築大工技能士（3級）	19 名	17 名	89.5%	67～87%
建築大工技能士（2級）	21 名	16 名	76.2%	37～41%

※全国平均の詳細は公表されず、級別のおおよその数値

ロボット・機械学科

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
第2種電気工事士（学科）下期	4 名	3 名	75.0%	55.9%
第2種電気工事士（技能）下期	3 名	3 名	100%	69.5%

建築士専科

2 級建築士試験					
	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	全国平均
学科試験（1次）	31 名	28 名	3 名	90.3%	39.1%
製図試験（2次）	27 名	14 名	13 名	51.9%	47.0%
総合	30 名	14 名	16 名	46.7%	21.8%

※学科試験合格者 28 名のうち 1 名は、製図試験を受験せず

## ☆ エクステンション事業

資格取得支援事業として、主に卒業生及び在校生を対象に各種試験対策講座を実施した。

### ・講座事業

資格試験対策講座	受講期間	受講時間	受講者数
2級建築士合格講座（製図）	2か月	63時間	12名
第2種電気工事士講座（筆記&技能）	4か月	65時間	未開講
合計			12名

### \*積水ハウス 設計マインド研修

1年次初級版として、12/16に入社1年目社員150名に研修（講習）を実施した。

4年次中級版として、8/22、23、26、27、9/5、6、9、10に入社4年目社員107名に対する研修（講習）を実施した。初級版を完全オンライン形式、中級版は対面方式として開催した。

## ☆ 校友会の活動状況

### 1. 広報渉外活動

(1) 第87期総会（令和6（2024）年10月26日）を「OCT3号館」にて開催した。

(2) 上記同日開催として、ホームカミングデーを実施

全校舎の案内と貸切り船（水上バス）にて大川クルーズ

(3) 支部活動として以下の行事を開催した。

① II Ken 大阪支部 合同開催：講演会と新社会人・新入生歓迎BBQ大会

(4) 日本国際ドラゴンボート選手権大会に出場した。 ※（福田学園 校友会と共催）

(5) 校友会ネットワーク推薦制度として、1名の入学者を推薦した。

(6) ビジネスサロン（第21回・第22回）として、文科省委託事業の講座を開催した。

### 2. 福利厚生活動

(1) 卒業アルバム(WEB版)を制作して、ホームページに掲載及び卒業記念品の贈呈を行なった。

(2) 卒業設計の審査を行い、卒業式に於いて校友会奨励賞「3組」に金一封を贈呈した。

(3) 在校生の各種大会「ロボット研究部（1件）・大工技能学科（2件）」に助成した。

(4) 校友会祝意表彰と金一封を贈呈した。

① 大阪府公共建築設計コンクール「第34回あすなろ夢建築」佳作入賞（インテリアデザイン学科）

(5) 学生自治会の協賛として「発汗会」を開催した。

(6) 国家資格合格者の報奨金を「第86期（18名）」に贈呈した。

(7) 入学お祝いのお食事券を発行、及び建築士試験のための製図版の貸出を行った。

### 3. 特別委員会の活動

(1) 国際交流部として、留学生歓迎会「大阪くらしの今昔館見学と懇親会」を開催した。

(2) OCT女子会として、懇親会を「Copito（コピート）」にて開催した。

#### 4. 記念事業・特別会計

- (1) 学園共催「地方出身者歓迎会」の実施
- (2) 学園共催「億天祭（卒業展&プチ文化祭）」への協賛

### ★ 大阪リハビリテーション専門学校

#### 1. 入学試験の状況

従来からの WEB を含む各種広告のほか、ホームページの充実、インスタグラムなどの発信を通し、広報募集活動を行ったが、本校の主な入学層である社会人の進学市場の低迷などにより残念ながら定員を充足することは出来なかった。令和7(2025)年度はオンデマンドやオンラインでの遠隔講義を増やし、社会人が仕事などと両立がしやすい環境を広報に活かし、定員充足を目指していく。

学科名 \ 区分	入学定員	志願者	合格者	入学者
Ⅱ部理学療法学科 (3年制)	40名	27名 (38)	26名 (35)	23名 (32)
Ⅱ部作業療法学科 (3年制)	40名	33名 (23)	33名 (22)	28名 (22)

( ) は昨年度数

各入試方式別の志願者数、入学者数の内訳は以下のとおりである。

学科名 \ 区分	AO (高校生)	高校推薦	一般	社会人AO
理学療法学科 入学者数 (志願者)	1名 (1名)	1名 (1名)	7名 (8名)	14名 (17名)
作業療法学科 入学者数 (志願者)	4名 (4名)	0名 (0名)	7名 (10名)	17名 (19名)

( ) は志願者数

#### 2. 国家試験の合格者数の状況

担任を中心とした専任教員による国家試験対策授業に加え、本校が加盟している全国リハビリテーション教育協会主催による Zoom での国家試験対策特別講義の受講や8回の模擬試験の実施と分析、外部講師による直前対策セミナー、卒業生による学習支援などを行った。模擬試験結果を踏まえ、成績低迷者に対しては個別やグループ別による補講を実施した。

また、国家試験本番に向け精神的な不安を抱えた学生には、メンタルケアや内発的動機づけを意識した個別面談を実施するなど、学生に合わせたきめ細やかな指導を行い、理学療法学科は100%の合格率を達成した。作業療法学科は最後まで下位層の成績が伸びず、残念ながら全国平均を下回った。

OCR の合格状況 ( ※新卒者のみ )

	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
理学療法士	31名	31名	100.0%	95.2%
作業療法士	28名	24名	85.7%	92.5%

### 3. 就職の状況

令和5(2023)年度の求人数については、理学療法士3,139件、作業療法士2,695件であった。求人数は前年度比で増加している。両学科ともに専任教員が履歴書の記入方法を含め、個別にきめ細やかな就職支援を行った結果、下記の通りの結果となった。

	卒業者数	国家試験合格者数	就職者数		進学者数	就職活動中
			資格に係る業	その他		
理学療法学科	31名	31名	29名	0名	0名	2名
作業療法学科	28名	24名	24名	3名	0名	1名

※国家試験受験後の就職先未定者は、卒業後、現在も就職活動を継続しており、教員も引き続き指導を行っている。

### 4. 教育指導

- ▷ 本校の大きな課題としている退学者抑制(令和6(2024)年度退学率:PT学科6.3%・OT学科5.3%)について、以下対策を実施した。
  - ・合格者に対して、入学前講座を実施した。職業意識の醸成と入学後の学習や学校生活を円滑に開始し学生生活に馴染むことができるように基礎科目の実際の授業形式での受講や、職業理解を深めるための説明を行い、毎回10名前後の参加者があった。
  - ・理学療法学科では毎週平日に2日、作業療法学科では土曜日に1日、卒業生を教育アシスタントとして採用し、解剖学や生理学などの基礎科目を中心とした補講を行った。令和5(2023)年度と比較し、全体的には参加者は増加しそれらが成績に反映している学生もいるが、本来参加してほしい成績不良者が様々な理由により参加率が低く、令和7(2025)年度に向けた課題が残ったため、対策を検討していく。
  - ・上記補講とは別に、成績不良者に対しては専任教員による個別指導を実施した。
  - ・精神的に不安定な学生や成績不良者については、頻回に面談を実施し、必要に応じ保護者との連携を取るなど状況把握に努め、学生サポートを行った。
  - ・活躍している卒業生との交流の時間を設定し学習意欲を増強する試みを行った。
  - ・臨床実習での途中リタイアを防止する方策として、教員が定期的に実習先を訪問し、実習指導者と連携し学生の状況を把握するとともに直接学生とも面談を行い、学生の声に耳を傾け助言やサポートを行った結果、両学科共に全員が実習を終了することができた。
  - ・複数のオンデマンド科目の設定の他、理学療法学科は土曜日、作業療法学科は金曜日にオンライン授業を実施し、本格的に遠隔講義を取り入れた。令和7(2025)年度はさらに該当する科目を増やす予定にしているが、授業評価や学生の成績との関連性も踏まえつつ、仕事や家庭との両立がさらに可能となるようなカリキュラムを構築していく。
- ▷ 両学科共に学校関係者評価委員会(1回/年)を8月に、教育課程編成委員会(2回/年)を11月と2月に開催した。学校関係者評価では、自己点検評価報告書に基づき外部委員による第三者評価を受けたが、基準1~9の全ての項目で3点満点中、平均は2.6点であった。教育課程編成委員会では、卒業生調査の分析結果、受験生の減少、国家試験の現状・課題、などについて報告を行い、各委員からご

所属先での事例などを通してのご意見やご指摘をいただいた。これらを授業内容や就職指導、OSCEなどに反映し、改善・検討を行ない、学生指導や学校運営等に活かしていく。

#### 5. 学習環境（施設）の整備について

- ・ 2号館3階の学生ラウンジを休憩スペースとしてだけでなく、グループ学習でも使用可能な空間として机や椅子を配置し、ラーニングコモンズとして利用可能な部屋に改修を行った。

### ★ 大阪保健医療大学

令和6（2024）年度は、教員業績評価の導入、実践的臨床教育の整理とラボの構築、OHSU 将来構想に基づくプロジェクトチームの設立、大学機関別認証評価第4クールに伴う自己点検評価項目の確認、クロスアポイントメント制度の制定、「合理的配慮に関する手続き規程」および「障がいのある人への修学上の配慮について(簡易ガイドライン)」の策定、経費削減のための取り組みなど、大学の質向上に向けて多岐にわたる内容を実施した。また、令和7（2025）年度新入生より1人1端末（iPad）を所持し、電子書籍(教科書)の導入、配布資料の電子化などICTを活用した教育をさらに進めるための準備を行った。さらに、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの新たな中期目標および計画の策定を行った。

入学者の状況としては、リハビリテーション学科115%と好調であったが、言語聴覚専攻科は15%と入学者の減少に歯止めがかからず、大阪府委託訓練事業 離職者等再就職訓練 長期高度人材育成コースへの企画提案が採択され、訓練生を10名受け入れることとなったが、今後継続した定員充足は極めて困難であると判断し、令和8（2026）年度以降の学生募集の停止が決定した。

国家試験の合格率は、理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚専攻科全て全国平均を上回る結果であった。特に作業療法学専攻は国家試験100%プロジェクトを立ち上げて以降、学園一丸となって教育改革を進めた結果、念願の100%を達成できたことは非常に喜ばしい結果であった。

#### 1. 入学試験の状況

令和7（2025）年度入試は18歳人口がこれまでの最小値付近であり、厳しい募集となると予測していたが、理学療法学専攻86名、作業療法学専攻29名の入学者を迎えることができ定員充足率は115%となった。出願者数は、チャレンジ（特待生）選抜を選択制に変更した為、リハビリテーション学科の延べ出願者数は274名（昨年度実績：309名）と減少した。ただし、実出願者数は158名（PT：124名、OT34名）となり、令和6（2024）年度入試の155名（PT：117名、OT：37名）、令和5

（2023）年度172名（PT：143名、OT29名）と比べると、減少傾向ながら現在の募集環境を考えるとPT、OT共に健闘しているといえる。一方、オープンキャンパス等の来学者実績は延べ457名（令和5（2023）年度実績：466名）であり、昨年度よりも2%程度減少しており、志願者数の確保や志願者を入学へつなげる施策の検討が引き続き必要である。

言語聴覚専攻科では、大卒2年課程が全国的に定員未充足の傾向が強く、最終的に定員40名に対し令和7（2025）年度入試への出願者数は8名（前年度対比-11名）、入学者数6名という結果となった。これまで様々な広報施策、制度的及び教育的改善を行ってきたが、直近10年間にわたり定員を確

保することができなかつた状況をふまえ、今後、継続した定員充足は極めて困難であると判断し、令和8（2026）年度以降の学生募集の停止が令和7（2025）年1月の理事会・評議員会で決定された。

なお、大阪府委託訓練事業 離職者等再就職訓練 長期高度人材育成コースへの企画提案が採択されたため、訓練生を10名受け入れることとなった。これによって、令和7（2025）年度入学生は、本科生と別科生とを併せて16名となった。

保健医療学研究科は、昨年度に引き続き入学者充足率33.3%と低い状況が継続している。令和7（2025）年度入試から、研究実施能力を図る新しい形式の入試を中期入試に導入したが、令和7（2025）年度大学院入学生は全て後期入試での合格者であり、中期入試への出願には繋がらなかつた。魅力ある大学院の学びを実現するためにも、広報戦略と定員充足に課題が残る結果となった。

(名)

区分 専攻	入学定員	志願者											入学者	
		総合型選抜	指定校推薦	公募制推薦	（共通テスト併用） 一般	チャレンジ	社会人	一般（ST）	AO（ST）	資格（ST）	（ST） ハロトレ	研究科		合計
理学療法 学専攻	70	94 (111)	22 (17)	12 (-)	45 (36)	32 (46)	0 (1)	—	—	—	—	—	205 (211)	86 (79)
作業療法 学専攻	30	24 (26)	10 (10)	1 (-)	27 (24)	7 (37)	0 (1)	—	—	—	—	—	69 (98)	29 (27)
言語聴覚 専攻科	40	—	—	—	—	—	—	4 (6)	2 (8)	2 (5)	14 (-)	—	22 (19)	16 (17)
保健医療 学研究科	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 (2)	2 (2)	2 (2)
合計	14 6	118 (137)	32 (27)	13 (-)	72 (60)	39 (83)	0 (2)	4 (6)	2 (8)	2 (5)	14 (-)	2 (2)	298 (330)	133 (125)

(第2志望含む) ( )は昨年度数

\*令和7（2025）年度選抜では、言語聴覚専攻科で大阪府委託訓練事業（ハロトレ）入試を実施

## 2. 就職の状況

求人数は理学療法士3,176件、作業療法士2,606件、言語聴覚士1,460件であり、継続的に十分な求人数が確保できている。また、各専攻・専攻科ともに、キャリア・サポート委員会を中心に就職セミナーや面接指導を実施し、特に面接指導では、課題のある学生について個別での補講セミナーも行った。さらに専任教員が求人票に基づき個別に学生指導を行うと共に、専任教員が臨床現場にて、現在の病院・施設での就職活動状況などの情報収集を行い、就職支援を行った結果、下記の通りの成果を得た。

	卒業者数	国家試験 合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法学専攻	69名	67名	65名	0名
作業療法学専攻	19名	19名	17名	0名
言語聴覚専攻科	22名	20名	18名	1名

### 3. 教育・学修支援

#### (1) 退学者の抑制と補習体制の充実

- ・職業理解と学修との動機付けを促し、早期より学生生活に慣れるよう、入学前教育及び入学前個別面談の取り組みを継続した。
- ・1年生の退学率5.0%未満および2年生以降の退学率抑制を目指し、取り組みを実施した。  
1年生の退学率（令和6（2024）年度入学者）は、理学療法学専攻：5.1%、作業療法学専攻：11.1%、言語聴覚専攻科：23.5%であり、目標を達成する事ができなかった。
- ・各専攻・専攻科では、職業理解の深化および学修意欲の向上を図る取り組みを継続的に実施している。特に継続的なフォローアップの一環として、対象学生に対して学習支援塾の利用を必須とし、第4クォーターを除くすべての期間で少なくとも1回は利用していることが確認されている。
- ・出席システムに関しては、出席不正への対応を随時行っており、令和6（2024）年度には遅刻届の電子化を導入した。これにより、遅刻手続きの円滑化と遅刻状況の把握が可能となり、不正防止にも効果を上げている。結果として、遅刻や欠席の実態把握が進み、非正規ルートによる登学を行う学生についても不正防止の対応が可能となった。

#### (2) 学習を促進し、充実した学生生活のための環境整備

- ・学生支援体制および学修環境整備の取り組みについて  
学生が教員に相談しやすい環境づくりを目指し、令和6（2024）年度も継続して体制整備に努めた結果、90%以上の学生が「教員に質問・相談しやすい環境」と感じている事が分かった。学生生活アンケートについては、令和6（2024）年度版の項目を見直したうえで実施するとともに、経年変化を確認した。アンケート結果はMoodleを通じて学生にも周知し、学生と教職員で組織される「学生満足度アゲ隊」と連携して、学生目線での改善点をヒアリング・分析したうえで、優先順位や対応時期を検討しながら、適宜改善を進めている。
- ・学修環境およびICT活用に関する取り組み  
令和7（2025）年度の新入生より、1人1台のiPadを持参することとしたため、授業環境のデジタル化の一環として以下の取り組みを進めた。
  - ①配布資料のデジタル化：令和7（2025）年度入学生からは原則電子媒体で配信とすることを決定。
  - ②電子書籍の導入：令和7（2025）年度入学生からの本格導入を決定。
  - ③ICT教育に関する教職員研修：令和6（2024）年度中に実施し、1人1端末の導入に向けた教職員のICTスキル向上を図った。
これらの取り組みを通じて、学生の利便性向上、教育の質の確保、学修意欲の向上を目指して今後も

施策の推進を図る。

### (3) 国家試験の合格率を100%とするための体制整備及び合格者数の状況

令和6(2024)年度卒業生における国家試験の合格率は以下の通りであり、いずれの専攻・専攻科も全国平均を大きく上回る結果を収めた。国試指導の体系的な見直しと学生への手厚いサポートを惜しまず、国家試験対策を講じてきた教職員の成果と考える。リハビリテーション学科においては、引き続き、国試対策の在り方を両専攻で共有し、より効果的な指導・支援の在り方と更なる組織的な体制構築を目指す。

#### ●OHSUの合格状況(※新卒者のみ)

	受験者数	合格者数	合格率(全国平均)
理学療法士	67名	69名	97.1%(95.2%)
作業療法士	19名	19名	100%(92.5%)
言語聴覚士	20名	22名	90.9%(87.5%)

この成果は、各専攻・専攻科が実施してきた継続的かつ計画的な国家試験対策の取り組みの成果であり、以下のような方策を講じたことによるものである。

#### 【理学療法学専攻の取り組み】

令和5(2023)年度と同様の対策体制を維持しつつ、成績低迷者に対する支援員によるフォローアップを強化。さらに、対策講義と小テストを通じた知識の定着、および模擬試験を活用した学修状況の把握と個別指導により、国家試験への実践力を高め、結果、理学療法学専攻は合格率97.1%となり、全国平均合格率(95.2%)を上回ることができた。

#### 【作業療法学専攻の取り組み】

新卒者の合格率については、過去数年は全国平均と比較し低迷していたが、令和3(2021)年度に発足した「作業療法学専攻 国試合格率100%を目指す協議会」の取り組み等を契機に抜本的な体制の見直しを行い、国家試験対策の強化として、4年次における対策体制の見直しや、卒業判定に用いる成績評価方法の再検証と適切な基準設定を実施。また、各学年において重点科目を設定し、科目試験での成績評価とフォローを徹底した。令和6(2024)年度はクラスのまとまりも良好であり、グループワークや個別指導、さらに卒業生による支援を効果的に取り入れた結果、全4年生が受験し100%の合格率を達成した。

#### 【言語聴覚専攻科の取り組み】

既存の国家試験対策に加え、令和6(2024)年度は特に体調面や学力面に不安を抱える学生が例年より多かったことから、通常以上に個別対応が必要となった。きめ細やかな支援体制を講じることで、多様な状況にある学生に対し柔軟に対応した結果、合格率90.9%となり、全国平均合格率(87.5%)を上回る結果を得ることができた。

国家試験に向けた今後の課題としては、さらなる成績下位層への支援の充実、試験対策の早期着手、個別支援体制の強化が挙げられる。これらの取り組みを通じて、全専攻での合格率 100%の定着を目指す体制構築を継続していく。

#### 4. 教育環境の整備

ICT 教育（GIGA スクール構想）に対応できる教室の設置及び快適な学生生活が送れるよう 1 号館情報処理室のラーニングコモンズ化及び 2 号館学生ラウンジの改修工事を実施した（2 号館学生ラウンジについては、OCR と按分）。

#### 5. 経費削減の取り組み

(1) 光熱費、(2) 印刷製本費・通信費、(3) その他の 3 区分に分けて、短期および中長期の対応策を整理・報告し、まずは短期的な取り組みから着手することとした。

令和 6（2024）年度においては、学生便覧および遅刻・欠席届のペーパーレス化を実施し、会議資料についても可能な会議体から順次ペーパーレス化を推進することで、印刷製本費の削減に努めた。

また、毎月第 1 火曜日を「ノー残業デー」と定め、1 号館の閉館時間を 18 時とすることで、光熱費等の削減にも取り組んだ。

#### 6. 自己点検・評価

令和 6（2024）年度においても、「大阪保健医療大学内部質保証方針及び実施体制」及び「大阪保健医療大学アセスメントプラン」に基づき、教育研究運営に至る全学的な自己点検評価報告書を作成し、各基準項目の「改善・向上方策」の継続課題について、担当委員会・部署にて内容を精査し実行に移していくことで PDCA サイクルに則り、諸活動を実施した。また、内部質保証システムに則り、成果や改善向上方策を自己点検して、事業報告、事業計画、中期展望及び期間中の取り組み（5 ヶ年計画）に反映させるとともに、「大阪保健医療大学アセスメントプラン」に基づき、得られた課題・改善方策『令和 6（2024）年度アセスメント実行レポート』を作成し、全教職員に情報共有を行った。

#### ☆ 福田学園校友会の活動状況

##### 1. 理事会及び部会の開催

###### ①理事会

理事会は 6 回開催され、研修活動、在校生支援活動、総会準備、予算案等について積極的な議論がなされた。本年は Web と対面を併用したハイブリッドの理事会となった。

###### ②部会研修会

PT 研修会 1 回（3 月）、OT 研修会 2 回（7 月、10 月）、ST 研修会 1 回（7 月）、  
大学院研修会 3 回（5 月、11 月、3 月）

##### 2. 福田学園校友会総会について

総会是对面開催で行い、予算案を承認いただいた。

3. 在校生・学校支援について

- ・カンボジアスタディツアーへ寄附 (25 万円) を行った。
- ・学校行事 (卒業式・入学式) に会長が出席し祝意を表した。
- ・卒業式では、校友会賞として賞状・副賞を各専攻の 1 人を表彰した。
- ・ドラゴンボート大会では、OCT 校友会に協賛という形で参加した。
- ・図書 (約 50 冊 : 約 14 万円分) を寄贈した。
- ・学園祭に校友会ブースを出展協力 (おでん) した。
- ・Therapist be ambitious (校友会会員・準会員の交流及び支援活動) を定期開催した。

★ 福田学園

1. 理事、監事、評議員について

(令和 7 (2025) 年 5 月 1 日現在)

理事	選出母体	
1号	設置する学校の長 (1名)	福田 益和
2号	評議員会 (2名)	宮崎 安弘
		佐藤 誠
3号	学識経験者 (4名)	山本 一仁
		水島 洋
		渡邊平太郎
		福田 眞
監事		村岡 かほる
		菊田 薫

評議員	選出母体	
1号	学園職員 (6~8名)	福田 益和
		佐藤 誠
		伊東 和幸
		石倉 隆
		島 雅人
		越智 久雄
		宗林 功
2号	卒業生 (3~4名)	宮本 光二
		村野 智子
		井口 知也
3号	学識経験者 (6~8名)	宮崎 安弘
		山本 一仁
		水島 洋
		福田 眞
		福田 祐子
		岡山 保美
		高橋 弘樹

## 2. 教職員の状況

		2025年5月1日現在	2024年5月1日現在	増 減
OCT 教員	専任教員	16	17	-1
	非常勤講師	76	81	-5
	(小 計)	92	98	-6
OCR 教員	専任教員	13	14	-1
	非常勤講師	122	118	+4
	(小 計)	135	132	+3
OHSU教員	専任教員	33	33	0
	非常勤講師	200	199	+1
	(小 計)	233	232	+1
事務職員	専任事務職員	34	35	-1
	業務委託派遣事務職員	0	0	0
	(小 計)	34	35	-1
合 計	専任教職員	96	99	-3
	講師・派遣	398	398	0
	(合 計)	494	497	-3

## 3. 経費削減対策について

ここ数年で、学園のサーバーのクラウド化、及びネット回線及び光電話の契約先の変更による経費削減学園全体の複合機、コピー機、プリンターの全台入替えによる経費削減、また、空調機の更新、及びデマンドコントローラーの更新及び電力使用量の監視、1・2号館照明器具のLED化を行い電気料金の削減を継続して行った。OHSUにおいては、令和4(2022)年度より経費削減及び環境問題を含むSDGs (Sustainable Development Goals) に積極的に取り組む観点から、掲示物のペーパーレス化を実施した。また、会議資料についても可能な限り、電子媒体での提供により経費削減に努めた。

## 4. 学園各号館の施設・設備改修計画について

各号館の建物附属設備・機器等について、改修及び入替について緊急性や費用を鑑み、年次で実行に移すための改修入替計画において、令和6(2024)年度は、1号館5階153教室をラーニングコモンズルームへ改修・2号館3階ラウンジも改修した。さらに緊急性が高まった3・5号館の揚水ポンプ故障による改修、2・5・6号館の室内外機の改修及び3号館における高圧受変動設備の改修工事を行った。また、1・2・5・6・3号館の消防設備の器具更新などを行った。

## 5. 自己点検評価、学校関係者評価、第三者機関評価及び評価結果公表について

OHSUにおいては、例年のとおり財団法人日本高等教育評価機構の評価基準に基づき、自己点検評価を行い、ホームページ上で公開した。

OCT、OCRでは令和6(2024)年度においても、職業実践専門課程の認定(申請条件)の中で、文部科学省が策定したガイドラインに基づき、学内における自己点検・自己評価、また、外部関係者を委員とした学校関係者評価を行うとともに、その結果をOCT、OCRホームページ上に公開した。

6. 「教育の質の確保と向上」に向けた5カ年計画の策定について

経済状況の変化やグローバル化、就労に対する価値観の多様化、少子化等、学校を取り巻く環境は、日々が大きく変化している。この様な大転換期においては、安定した学生数の確保のため、更なる信頼性の向上が求められ、特に教育の質の確保と向上に向けた取組みを行った。このため、引き続き令和5(2023)年度もOHSU、OCT、OCRにおいては、教育の質の確保と向上に対する5カ年計画(「中期展望および期間中の取組み」)を策定の上、目標設定等具体的に取組み、3校とも「教育機材、機器備品の購入、校舎、建物附属設備の改修」については、計画の項目に必ず盛り込むこととした。

7. 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の指定について

厚生労働省が主幹となり、非正規雇用労働者である若者等がキャリアアップ・キャリアチェンジして安定的に働くことができるよう教育訓練給付が拡充された『専門実践教育訓練』において、OCRでは、令和5(2023)年度に理学療法学科(3年制)が再指定を受けている。さらに、『一般教育訓練』においてOHSU大学院では、「脳神経疾患身体障害支援学領域」が令和5(2023)年度に再指定を受け、令和6(2024)年度に「運動器疾患・スポーツ傷害身体障害支援学領域」「認知・コミュニケーション障害支援学領域」が指定を受け、ST専攻科は再指定を受けた。

OCTでは、これまでの類型『業務独占・名称独占』から『2級建築士(受験率&合格率)』が外れる類型『職業実践専門課程』での新規認定を令和6(2024)年10月に受けることができた結果、令和7(2025)年度の学生募集に於いても、引き続き入学定員を充足する結果となった。

8. ネット出願の導入について

OCTに於いては、平成28(2016)年度より「キャリア教育共済協同組合」のネット出願事業の先行的取組みをスタートさせ、これまで一定の成果も見られた。今後も引き続き、文科省が推進する『高大接続改革』にも対応したネット出願のシステム内容についても注視して行く必要がある。また、全出願者の『完全ネット出願』が事務DXにも繋がることから、その導入に向けた課題等の洗い出しを引き続き行った。

OHSU(学部・ST)およびOCRは、全ての入試をネット出願にて実施した。文科省の方針では、令和5年(2023)年度入試にむけて調査書の完全電子化を目指すとしており、今後eポートフォリオの普及等と相まって、高校生・社会人の隔てなくネットでの出願が加速すると見込まれる。

## 参考資料

### ★大阪工業技術専門学校

＜学科別学生数の状況＞

(令和7(2025)年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	在籍数	増減	総定員	充足率(%)
※I部建築学科	2年	57	40	97	-23	200	48.5
建築設計学科	2年	26	22	48	3	60	80.0
※大工技能学科	2年	19	22	41	-6	70	58.6
※インテリアデザイン学科	2年	34	24	58	2	70	82.9
※ボット・機械学科	2年	22	15	37	-1	70	52.9
※建築士専科	1年	31	-	31	-1	30	103.3
<b>I部小計</b>		<b>189</b>	<b>123</b>	<b>312</b>	<b>-26</b>	<b>500</b>	<b>62.4</b>
増減		23	-49	-26			
II部建築学科	2年	51	61	112	9	100	112.0
<b>II部小計</b>		<b>51</b>	<b>61</b>	<b>112</b>	<b>9</b>	<b>100</b>	<b>112.0</b>
増減		-5	14	9			
<b>合計</b>		<b>240</b>	<b>184</b>	<b>424</b>	<b>-17</b>	<b>600</b>	<b>70.8</b>
増減		18	-35	-17			

▪上記※印の学科については、2024年度(令和7年度)より、入学定員の変更をしております学年進行による総定員となります。

### ★大阪リハビリテーション専門学校

＜学科別学生数の状況＞

(令和7(2025)年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	3学年	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法学科	3年	28	26	27	81	120	67.5
作業療法学科	3年	28	21	22	71	120	59.2
<b>合計</b>		<b>56</b>	<b>47</b>	<b>49</b>	<b>152</b>	<b>240</b>	<b>63.3</b>

★大阪保健医療大学

<学科-専攻、専攻科別学生数の状況>

(令和7(2025)年5月1日現在)

専攻名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法学専攻	4年	86	80	76	68	310	280	110.7
作業療法学専攻	4年	29	24	23	18	94	120	78.3
<b>学部小計</b>		<b>115</b>	<b>104</b>	<b>99</b>	<b>86</b>	<b>404</b>	<b>400</b>	<b>101.0</b>
保健医療学研究科	2年	2	2	—	—	4	12	33.0
言語聴覚専攻科	2年	18 内、別科生10	16	—	—	34	80	42.5
<b>合計</b>		<b>135</b>	<b>122</b>	<b>99</b>	<b>86</b>	<b>442</b>	<b>492</b>	<b>89.8</b>